

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------------------|--|--|--|-----|------|------|-------|---|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国際福祉専門学校 | 平成8年2月26日 | 武田 哲一 | 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-11-7 (電話) 03-3352-9280 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人東京国際学園 | 昭和60年4月5日 | 武田 哲一 | 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-3-8 (電話) 03-3367-1103 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育・社会福祉 | 社会福祉専門課程 | 介護福祉科 | 平成9年文部科学省告示第184号 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 学校教育法の規定及び介護福祉業界並びに介護福祉の専門職を志望する者等の要望を踏まえ、職業実践専門課程に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等との連携を密にしながら実務に関する知識、技術について組織的な教育を行っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成28年2月29日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2年 | 2158 | 580 | 940 | 638 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 80人 | 30人 | 28人 | 4人 | 9人 | 13人 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:--- | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 平常点、試験、出席率を勘案し、60点未満は不可とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■夏季:7月31日～9月2日 ■冬季:12月25日～1月6日 ■春季:3月16日～3月31日 | | | 卒業・進級条件 | 卒業:学則10条に定める授業科目の成績評価に合格し、所定の修業年限以上在籍し、課程を修了した者に卒業証書を授与する。進級:卒業に準ずる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学科教員及び事務局職員含め全学で対応する。 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 無し ■サークル活動: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 介護施設 | | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> | | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 介護福祉士 | ② | 4人 | 3人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護福祉士 | ② | 4人 | 3人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 0名 ■中退率 0% | | | 平成30年4月1日時点において、在学者15名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者15名(平成31年3月31日卒業生を含む) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ■中途退学の主な理由 経済的理由、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組(中退者のいた場合の本校の対応) 体調不良の学生、経済的に困窮している学生に対しては、学生及び保護者と協議しながら最善の方策を講じる。授業に遅れがちな学生に対しては、学科全教員で徹底した個人指導を実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | 授業料(116,000円から696,000円の間)の本校独自の減免制度がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無し ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.ti-fukushi.ac.jp | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 本校は、介護福祉士養成校として所定の必修科目について校内で講義・演習・実習等を行っているが、さらに、専門分野に関して、在宅、施設において支援が必要な高齢者等への介助方法など、介護現場において必要となる知識・技術・技能等を修得するため知見のある企業等と連携した職業実践教育を行うことを基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 東京国際福祉専門学校教育課程編成委員会規程第2条により、同委員会の目的として、「必要な情報の把握・分析を行い、本校の教育課程の編成に活かすこと」を定めている。第3条では所管事項として、「教育課程のあり方、その他、教育課程の編成に関する事項」と定めている。それらを踏まえ、教育課程編成の基本方針及び具体的なカリキュラム決定に関し、教育課程編成委員会の意見・要望・提言等を最大限取り入れている。それらの内容を理事会、学科教員、事務局職員に周知し、教育課程編成の基礎としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成31年3月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------------------|-------------------|----|
| 浦尾 和江 | 東京都介護福祉士会理事 田園調布学園大学人間福祉学部教授 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | ① |
| 草野 篤子 | 日本世代間交流学会会長 白梅学園大学名誉教授 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | ② |
| 荒瀬 英樹 | 社会福祉法人若竹大寿会品川区立社松特別養護老人ホーム施設長 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | ③ |
| 近藤樹生 | 白梅学園大学学長(保育学) | 平成31年2月5日～同年3月31日 | ② |
| 町田とし江 | 社会福祉法人二葉保育園二葉南元保育園園長 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | ③ |
| 武田 哲一 | 学校法人理事長・校長 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 京谷健司 | 事務局長 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 小林 幸弘 | 事務局長補佐 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 福田ひとみ | 介護福祉科主任 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 松井 友子 | 子育て支援学科主任 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 田島千英子 | 国際福祉ビジネス科主任 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 木村 一秋 | 介護福祉科副主任 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 広田 学 | 総務課長 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |
| 宗 國男 | 質保証推進室長 | 平成31年2月5日～同年3月31日 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (平成31年2月に2回)

(開催日時(実績))
 第1回 平成31年2月5日 18:00～20:30
 第2回 平成31年2月19日 18:00～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。①訪問介護の実習を実施したらどうか～当面、「生活支援技術」等の中で、在宅介護にも役に立つ介護を強化する②一人暮らし高齢者へのケアについて力を入れてほしい～「生活を楽しむ」「介護の基本」「生活支援技術」「認知症の理解」等の中で工夫したい③卒業生(留学生含む)からのアドバイスは、有意義な試みと思う～あらゆる科目で取り入れている④実習を終えて実習でわからなかったことに対するアフターフォローは大切だ～実習後の丁寧な指導は本校の特徴になっている⑤最近の若者は文章を書けないと言われているが～「介護総合演習」、実習の記録などで、くどいほど指導している⑥留学生は、介護福祉士の資格を取得しそれぞれの母国に帰れば、介護分野のリーダーとしての役割を担う。マネジメントの指導も力を入れて～領域「人間と社会」「介護」「心と体の仕組み」「医療的ケア」「一般科目」を通じ、指摘の内容についても力を入れている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校及び関係業界等が求める育成人材像の育成に適った実習であること。実習先及びその利用者に迷惑をかけない実習であること。実習中及び実習後に実習生・施設の実習指導者・本校実習担当教員による徹底した実習の振り返り・反省を行うことを基本指針としている。また、コミュニケーション、利用者理解、日常生活の介護技術、実習施設の役割と機能、チームワークと連携、倫理と態度、自己覚知などの習得を目指している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習等を企業に依頼する際、当該実習等の法的位置づけ、本校の方針、実習生情報等を依頼企業に説明し理解を求め、実習の目標を達成するための実習内容・段取り等を学校及び実習先で協議する。実習生のオリエンテーションを行う。実習中に本校教員が巡回指導に行き、実習生の指導とともに実習先の要望等を把握する。実習後の実習評価は実習施設から「実習評価表」を作成していただく。評価項目①実習倫理②施設理解③利用者理解④介護技術⑤介護過程⑥他職種協働⑦記録⑧態度。評価は、①評価項目について5段階評価と特区事項②施設指導者所見③総合評価。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|--------|--|--|
| 介護実習Ⅰ期 | 利用者がその人らしさを維持しながら生活する状況を理解する。施設の概要を理解する。利用者・家族とのコミュニケーションの実際を体験する。生活支援者としての自己を振り返る。 | ①高齢者在宅サービスセンター 上中里つつじ荘 ②光陽苑デイサービスセンター ③横浜市東寺尾地域ケアプラザ ④地域福祉センター金井原苑 |
| 介護実習Ⅱ期 | 利用者の心身の状況を把握した基本的な生活支援技術を実践する。施設で働く職員の職種と役割を知り、チームケアのあり方を理解する。介護D34:K36者の視点で根拠ある記録・報告ができる。利用者の暮らしや今までの生き方を尊重した介護過程の展開を理解する。生活支援者としての自己を振り返る。 | ①特別養護老人ホーム金井原苑 ②特別養護老人ホーム三井陽光苑 ③特別養護老人ホーム喜多見ホーム ④品川区立杜松特別養護老人ホーム |
| 介護実習Ⅲ期 | 利用者の身体的、精神状態に応じた援助の展開を理解し、実践を学ぶ。チームケアのあり方を理解し、他職種の連携に必要な課題を理解する。介護者の視点で利用者の個性を理解し、根拠ある記録・報告ができる。利用者の暮らしや今までの生き方、自分の願いを尊重しながら介護職としての専門性を自覚した介護過程の展開を理解する。 | ①特別養護老人ホーム菊かおる園 ②特別養護老人ホーム南陽園 ③特別養護老人ホーム喜多見正吉苑 ④介護老人保健施設デンマークイン新宿 |
| 介護実習Ⅳ期 | 介護技術、利用者・家族とのコミュニケーションの取り方、他職種との連携について深く学ぶ。介護現場での介護職としての役割・責務について自覚する。施設の運営、地域とのかかわり、行政との連携等について理解する。訪問介護、訪問入浴介護等在宅介護についてもその役割と責務について理解する。 | ①品川区立グループホーム杜松 ②障害者支援施設新宿けやき園 ③救護施設黎明寮 ④若葉高齢者在宅サービスセンター |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教員研修は、企業等との連携を重視しながら、教員の資質及び能力区の向上を図り、本校の教育理念に沿った教育を行うのに相応しい教員を養成することを目的としている。研修の内容は、教員研修規程第3条に定めているように、教員が現に担当し、又は、将来担当することが予想される教務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させる内容とする。校長は、教員研修規程第4条に基づき、研修計画を立て教員に研修の機会を与えなければならない。校長は、研修を実施した場合は、研修計画書の改善、職員の活用その他の人事管理に資するため、研修の記録を作成する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 2018アクティブ福祉 出席者数: 2名(うち専任教員数3名、兼任教員0名)(全専任教員数4名、全兼任教員数9名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 平成30年9月28日 東京都社会福祉協議会主催で東京都老人福祉協会に所属する施設の事例報告会を実施した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会 出席者数: 1名(うち専任教員数1名、兼任教員0名)(全専任教員数4名、全兼任教員数9名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 平成30年11月28日～30日 日本介護福祉士養成施設協会主催で、新カリキュラム実施に伴う指導力習得のための研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 2019年国際福祉機器展 出席者数: 1名(うち専任教員数1名、兼任教員0名)(全専任教員数4名、全兼任教員数9名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 令和1年9月25日、一般財団法人保健福祉広報協会主催でハンドメイドの自動具から最先端技術を活用した福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めた国際展示会に参加する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック教員研修会 出席者数: 1名(うち専任教員数1名、兼任教員数0名)(全専任教員数4名、兼任教員数9名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 令和元年9月20日、日本介護福祉士養成施設協会主催で、①養成校に求められる介護福祉士像を学習内容にどのように落とし込み、学生へ教授するのか、具体的方法を学ぶことで教員の質の向上を目指す。②留学生受け入れ後の教育・実態事例検討会へ参加し、留学生に対する指導方法を習得する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は、関係法規に則り、委員構成を行っており、結果は本校ホームページ等で公表している(本校学校関係者評価委員会規程による)

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|------------------------------|
| (1)教育理念・目標 | 理念、目的、育成人材像 |
| (2)学校運営 | 運営方針、事業計画、運営組織、人事給与制度、情報システム |
| (3)教育活動 | 教育方法・評価、授業計画、資格・免許取得、教員 |
| (4)学修成果 | 就職率、資格・免許取得率、卒業生の社会的評価 |
| (5)学生支援 | 就職等進路、中途退学対応、学生相談、卒業生対応 |
| (6)教育環境 | 施設設備、学外実習、防災・安全管理 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生募集、入学選考、学納金 |
| (8)財務 | 財務基盤、予算・収支計画 |
| (9)法令等の遵守 | 関係法令、設備基準等の遵守、個人情報保護 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 社会貢献、地域貢献、ボランティア |
| (11)国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

①施設で働く場合、特技を身につけることによって利用者とのコミュニケーションを取りやすくなるので、授業で工夫してほしい～「生活を楽しむ」において、楽器、ゲーム、ダンスなど取り入れているが、なお、工夫したい②介護施設には介護の資格を持っていない職員も多い。本校の学生は2年間本格的、体系的に介護技術・知識を学んでいる。自信をもって現場に入るよう援助してもらいたい～自信と心の余裕の醸成に力を入れる③要介護の高齢者対応だけでなく、介護予防についても学んでほしい～領域「心と体のしくみ」などの授業でさらに深めたい④卒業生(特に留学生)の話を聞く機会は貴重だ。できるだけ多くの授業で充実させて～留学生を中心に卒業生とは、卒業後も連絡し合い、授業への協力を依頼している⑤科目ごとのオリエンテーションは大事だが、教育理念・教育目標等を踏まえた全カリキュラムについて全学生に周知させることも重要だ～全学的に検討したい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|------------------------------------|------------------------|---------|
| 長澤武嗣 | 新宿区社会福祉事業団若葉高齢者在宅サービスセンター所長 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 業界職能団体 |
| 小室孝子 | 北区社会福祉事業団高齢者在宅サービスセンター上中里つつじ荘センター長 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 業界職能団体 |
| 町田とし江 | 社会福祉法人二葉保育園二葉南元保育園園長 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 業界職能団体 |
| 牧 裕子 | 社会福祉法人さやまが丘保育の会常務理事 統括園長 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 業界職能団体 |
| 竹浪隆良 | 首都大学東京教育センター特任教授 元都立高校校長 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 学校関係有識者 |
| 徳堂泰作 | 社会福祉法人東京ムツミファロ施設長 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 地域福祉団体 |
| 合原由美 | 介護福祉士 平成28年3月卒業 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 卒業生 |
| 増田亜希子 | 保育士 平成29年3月卒業 | 平成30年11月15日～平成31年3月31日 | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.ti-fukushi.ac.jp>

公表時期: 令和元年10月9日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等を代表して各種委員会に参加していただいている方には、報告書等で情報提供をしている。一般的には、本校のホームページ等で情報の公開を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|--------------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 運営方針、事業計画、運営組織 |
| (2)各学科等の教育 | 理念、目的、育成人材像 |
| (3)教職員 | 人事給与制度、教職員研修 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | キャリア教育 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 教育課程編成、施設設備 |
| (6)学生の生活支援 | 学生相談、学生寮 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 経済的支援、奨学金制度 |
| (8)学校の財務 | 財務基盤、予算・収支計画 |
| (9)学校評価 | 学校関係者評価、教職員による自己評価 |
| (10)国際連携の状況 | ---- |
| (11)その他 | ---- |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <http://www.ti-fukushi.ac.jp>

授業科目等の概要

| (社会福祉専門課程介護福祉科) | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|----------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 人間の尊厳と自立 | 人間に理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要について理解する。介護場面における倫理的課題に対応できる基礎力を養う。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 人間関係とコミュニケーション | 介護実践のために要する人間関係の理解や他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養い、対人関係を形成するためのコミュニケーションを学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 社会の理解 | 個人の生活と社会との関わり、福祉の歴史、制度を理解し、福祉専門職としての基本的知識を習得し、利用者理解に要する力を身につける。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 生活を楽しむⅠ | 生活支援者として生活を楽しみ、利用者で生活を楽しむ知識・技術を学ぶ。俳句、フラダンス、生け花、茶の湯、宴会芸などを学び日本の文化・習慣を学びお持ち無しの意味を理解 | 1前 | 30 | 1 | | ○ | | | | | ○ | |
| ○ | | | 生活を楽しむⅡ | 住む場所において、その人らしい生活を支える「生活を楽しむ」ための計画立案、実践、評価することで生きていく意欲について学ぶ。 | 2前 | 30 | 1 | | ○ | | | | | ○ | |
| ○ | | | 統計 | 社会の理解を深めるため、エビデンスに基づいた介護福祉業務を実施する。又、適切なケアを提供するために統計の知識を習得し、根拠となるデータを読み取る力を学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 教育 | 卒後教育の流れを理解し、介護福祉士の自己研さんについて理解を深める。卒業生の現状や福祉現場の実業を知り、自身の進路について具体的にイメージする。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 介護の基本Ⅰ | 介護の倫理、意義・役割について介護の歴史や関係法規から学ぶ。さらに、他職種として活躍する卒業生を外部講師として他職種との連携の重要性を学ぶ。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | | | | ○ | |
| ○ | | | 介護の基本Ⅱ | 利用者の安心・安全な生活のために必要な「人間と生活」介護福祉の基本原則、日常生活の支援の基本、介護福祉の活動の場などを学ぶ。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | | | | ○ | |
| 合計 | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (社会福祉専門課程介護福祉科) | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|-------------|--|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 介護の基本Ⅲ | 介護における安全やチームケア等を学び、チームのリーダーシップを理解する。事故や感染症対策、介護者自身の健康を守るための知識・技術を習得する。 | 2 通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | コミュニケーション技術 | 利用者の尊厳・人権、人生を守る技術を学ぶ。利用者のQOLの維持向上を目指したコミュニケーション能力を習得する。 | 1 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術Ⅰ | 生活支援技術の意義、目的を理解し、基本的な身体の動き、移動・身支度・居住環境整備について演習する。車いす体験を行う。 | 1 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術Ⅱ | 食事・入浴・排泄とうについてグループワーク・ロールプレーの演習を通して生活支援技術の知識・技術を学ぶ。 | 1 通 | 90 | 3 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術Ⅲ | 睡眠、終末期、緊急時、急変時等利用者の心身状況の変化に応じた介護をグループワークなどの演習を通じて学ぶ。 | 2 通 | 90 | 3 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術Ⅳ | 障害に応じた基本介護技術の津子規・技術を学ぶ。喀痰の吸引、ストーマ装具の交換、尿道カテーテルの装備等医療的ケアとの連携を知る。 | 2 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護過程Ⅰ | 利用者情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施評価の過程を事例等で学ぶ。利用者の願い思いを理解する。 | 1 通 | 90 | 3 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護過程Ⅱ | 1年次に学んだ各教科や介護実習の事例から、介護過程の理解等、意義及び展開を振り返り、Ⅲ期実習に向けた実践方法を学ぶ。 | 2 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護総合演習Ⅰ | 介護実習の準備（オリエンテーション、記録の書き方）、実習目標、実習報告会の意義等を学ぶ。 | 1 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (社会福祉専門課程介護福祉科) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|----------|--|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | | |
| ○ | | | 介護総合演習Ⅱ | 実習中のリスクマネジメント、利用者や他の職員との信頼関係の大切さなどを学ぶ。実習報告かいでは1年生も参加し、卒業生をスーパーバイザーとして招いている。 | 2通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | | | 介護実習Ⅰ期 | ①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用や・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、介護福祉士の役割を理解する。②利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成・修正、実施後の評価や計画の修正のサイクルである介護過程を展開する。③常に自己を省み、自己の成長に繋げるとともに、専門職業人としての倫理を育てる。 | 1後 | 96 | 3 | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | 介護実習Ⅱ期 | | 1後 | 144 | 4 | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 介護実習Ⅲ期 | | 2前 | 192 | 6 | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 介護実習Ⅳ期 | | 2後 | 56 | 1 | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 発達と老化の理解 | 人間の成長と発達についての基礎的理解ができ、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。 | 1通 | 60 | 4 | | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 認知症の理解Ⅰ | 認知症の歴史や背景を理解する。認知症の基礎的知識、認知症の人の体験や意思表示の困難な人との関わり方を学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 認知症の理解Ⅱ | 本人及び家族の環境に配慮した介護の視点を学ぶ。また、認知症に関する施策を通して地域における連携と協働を理解する。 | 2前 | 30 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解Ⅰ | 障害者の医学的理解・心理的理解・生活上の理解・介護上の留意点を学び、本人・家族の環境に配慮して介護の視点を習得する。 | 1後 | 30 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (社会福祉専門課程介護福祉科) | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|--------------|--|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 障害の理解Ⅱ | 障害者の生活支援の根拠となる知識を習得し、利用者のニーズに応じるためのサービスが提供できるような学びをする。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | こころとからだのしくみⅠ | 人体の構造や機能及び介護サービス提供時の安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | こころとからだのしくみⅡ | 心と体の仕組みについて学び、介護を実践するとき、利用者の心身両面からアセスメントする視点を習得する。 | 2通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 医療的ケアⅠ | 人間の尊厳の厳守、倫理観の確立と医療行為に関する他職種との連携について理解する。健康状態の把握や清潔、感染予防について学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 医療的ケアⅡ | 身体の解剖整理を理解し、感染予防、喀痰吸引、経管栄養を安全に行うための基礎知識を習得する。 | 2後 | 40 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 医療的ケアⅢ | 高齢者、障害者のケアをシミュレーションを用いて、安全に一人で実施できるよう学ぶ。 | 2後 | 40 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 学びの技法Ⅰ | 人間関係や社会生活を円滑にするために知っておくべき基本的なマナーを身につけ、思いやりとともに品格のある人間形成を目指す。 | 1前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 学びの技法Ⅱ | ビジネスコミュニケーションマインドとスキルを高めるとともに、自分で考える力を育てる。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | アジアの今 | アジアの人々の暮らしに視点を当て、多様な出身国の介護職の人々とより良い協働関係を築く能力を身につける。 | 2前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (社会福祉専門課程介護福祉科) | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|-----------|---|---------|--------------|-------------|------------------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 目指せ介護福祉士Ⅰ | 1年次の基礎科目を復習し介護福祉士としての必要な基礎的知識を確認する。国家試験の目的や概要を理解し、苦手科目を克服する。自己学習する習慣を身につける。 | 2前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 目指せ介護福祉士Ⅱ | 目指せ介護福祉士Ⅰでの学習、自己の傾向を把握した上で、介護福祉士として必要な知識・技術を総合的に克服し、国家試験合格を目指す。 | 2後 | 90 | 3 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | DD | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 38 科目 | | | | 2158単位時間(93 単位) | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|--------------------------------------|----------|-----|
| 所定の授業科目の成績評価に合格すること。講義・実習・演習を受講すること。 | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 52週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。